

2023年 新政クラブ 視察報告書

[視察項目] 和歌山県田辺市 廃校（旧二川小学校）を利用した私立小中一貫校
について

[報告者] 鈴木 正一

[訪問日時] 令和5年11月7日(火) 10時から11時

[訪問場所] 和歌山県 田辺市役所

[対応者] (敬称略)

田辺市議会事務局長 前溝浩志

田辺市議会事務局

主事 山根木大輝

田辺市教育委員会

中辺路教育事務所 所長 平野清孝

田辺市役所 中辺路行政局 産業建設課 課長 坂本順哉



[視察目的]

- ・館山市において、学校再編が行われているので、今後の取組みとして参考になると考えた。

[旧二川小学校 施設概要]

- ・所在地 田辺市中辺路町河合 1451 番地 平成25年(2013)年3月閉校

- ・建設年度 昭和58～59年度(新耐震基準)
- ・鉄筋コンクリート造、3階建 校舎計1802㎡ 体育館680㎡ 運動場6179㎡
- ・施設内容 普通教室5、食堂、教員室、会議室、校長室、保健室等計17室
- ・用途地域 都市計画区域外、景観計画区域

[利活用に向けた主な経過①]

- ・平成25年3月に二川小学校を閉校し、6月に学校活用検討委員会(自治会役員等が中心)を発足したが、平成28年3月に解散して、6月に学校活用委員会(閉校時の保護者・移住者・若者等中心)を発足。
- ・平成29年7月に旧二川小学校基本計画策定委員会が発足し、経過報告及びスケジュール確認等、事例研究をしながら市民アンケートを2回実施し、アイデアの優先順位、実現性の高い項目を挙げて基本計画案を検討、平成30年3月に田辺市旧二川小学校活用基本計画算定した。

[利活用に向けた主な経過②]

- ・令和4年6月 一般法人ワカヤマスコラボ(現うつほの杜学園設立準備会)から、旧二川小学校を活用した探求型小・中学校新設が提案される。
- ・令和4年9月 一般社団法人ワカヤマスコラボから
「探究型バイリンガル小・中学校事業計画書」の提出
- ・令和4年12月 中辺路自治連絡協議会および旧二川小学校区内町内会長・区

長から市長に対し「うつほの杜学園(仮称)誘致要望書」が提出される。

- ・令和5年5月 田辺市長、うつほの杜学園設立準備会、旧二川小学校区内町内会・区代表の三者による「旧二川小学校利活用事業に関する協定書」を締結
- ・令和5年6月 企業版ふるさと納税募集開始
- ・令和5年10月 クラウドファンディング開始(うつほの杜学園設立準備会)

[田辺市旧二川小学校活用基本計画②]アンケート結果の概要

- ・地域の魅力 「自然が豊か」が最も多く、次いで「世界遺産・熊野古道がある」
- ・地域活性化に必要な事 「地域の資源や魅力を活かした産業振興」が最も多く、次いで「企業誘致」「地域の文化や祭りを保存継承」であった。
- ・旧二川使用学校利活用すべきか 「利用すべき」が大半しめて、「取り組み内容によっては協力したい」が半数以上
- ・活用方法 「福祉関係」が最も多く、次いで「宿泊施設」、「地域内の人々の交流の場」
- ・運営主体 「地域(地元)と民間事業者双方が運営」が半数
- ・地域活性化への取組への参加意欲 「取組内容によっては行動する」が最も多く、次いで「行動したいが難しい」

[円滑な誘致ができた要因]

- ・プロポーザル公募に向けて庁内協議を進めていて、活用にあたっての課題整理ができていた。
- ・法令上及び施設の現況についての課題が整理できていた。尚、耐震基準を満たしていた事
- ・市の政策の方向性と合致していた。また、基本計画の活用基本方針と整合していた。地元のからの理解があったことが、円滑な誘致ができた要因がある。

[質問回答]

Q 私立の小中一貫校を作る目的はなにか

A 地方での限られた学校の選択肢の拡大

- ・うつほの杜学園設立準備会では、地方

の限られた教育選択肢の現状を踏まえて、グローバル(世界)×ローカル(地域社会)の視野を併せ持ち大自然の中で世界の子どもたちや地域社会とつながる新しい学校の実現を目指している。

田辺市としては、上記の理由に加え、教育移住による地域人材の確保、関係人口の増加、空き家活用の促進、遊休施設の有効活用といった効果が期待でき、関係する諸計画との整合性も踏まえ、支援を行うこととした。

Q 田辺市を選んだ理由はなにか

A 研究的かつグローバルな学校を実現するにあたっての自然環境や文化的、歴



史的文脈があり、既に世界から熊野古道への訪問者が多いこと。

また、カリキュラムを実現する上での建物や敷地環境が整っていること。

学校近隣の皆さんに学校の新設の賛同を頂いたことが挙げられる。

Q 小中一貫校設立のためにかかる経費はどれくらいか

A うつほの杜学園設立準備会では、小学校設立のための経費を約4億円と想定している。

- ・学校法人創設のための設立・運転資金 約1億円
- ・校舎改修費 約2億4000万円 ・必要な準備資金 約6000万円

Q 田辺市にとってどのようなメリットがあるか

A 私立小中学校の創設により、次のような期待をしているか。

- ・教育移住による新たな人の流れの創出
- ・教育における選択肢の拡大
- ・遊休施設の有効活用 市民の財産である廃校舎を市活用できるメリットがある。

〔参考に〕

[探究型グローバル小・中学校]の概要

- ・事業主体 一般社団法人うつほの杜学園設立準備会(和歌山市)
- ・開校目標 令和7年(2025)4月

・学校概要 小学校 定員 150名(一学年 25名)想定

中学校 定員 75名(一学年 25名)想定 令和11年開校予定

学費(検討中) 一年間80-100万+設備管理費+教材費ほか

・学校の特徴 学校法人を設立し、小・中一貫の私立一条校を目指す

地域ローカルとグローバル両方と連携したグローバルな学校運営

熊野古道の自然の中で行う探究型グローバル教育

食から広がるサステナブル&ウェルビーイング教育

〔所感〕

田辺市二川地区では、廃校活用について地域で繰り返し議論を行っている。地域住民の中に廃校を地域のために役立てたい、そのためには自らも協力しようという機運の醸成ができていた。館山市でも廃校となる学校にある地域でどのような活用が地域コミュニティにとって良いのか、しっかり話し合っていく必要があると考える。

また校舎の耐震基準が新基準に合致しており、基幹的な改修をせずに活用できる状態であったことは大きかった。

学校法人「うつほの杜」の誘致によって校舎の利活用だけでなく、教育移住も見込める。館山市でも現在検討されている学校再編の中で、特徴を持った学校を作ることで、その学校を目的とした教育移住も期待できるのではないかと。

れまでの日本の「一律的」な教育ではなく、個々の個性に合わせた探求型の教育を求める声は強くなっている。その期待に応えられる学校づくりも検討すべきでは

きでは

